



イタリアで商業の街として賑わう、ミラノ。そのミラノに数年前に建てられた世界的に有名になったのが、ボスコ・ヴェルティカール『垂直の森』を意味する、タワーマンション。

高さが110mと76mの二棟からなるタワーマンション。世界中が注目したこのマンションのテラスには、もの見事に森とも言えるくらい木が植わっているのです。

限られた面積でミラノの緑を増やすことを考えて設計されたプロジェクトで、各戸のテラスに3.6・9mの計2万本の木が直植えされているそうです。

当然ながら生きている樹木です。何十年もすれば、このマンション自身が木に覆い被されてしまふのでは無いかと思います。もしかしたらそう言う事が前提で設計されたのかも知れません。

昨今の屋上緑化には緑化システムが使用されますが、後付けの場合、樹木そのものの重量や

土、水分を考えると、建物や設計した際に考慮されたいないために、弊社ではVUS500のような軽量土を使用してかた少ない水分でも枯渇しないような植物が選定されます。

しかし、これだけの大樹で水分もあり、かつ樹木も、根もほとんど伸びていくので風の影響もあるでしょう。風の揺れもないパベルの塔のような気もします。

ここまでしなれば、都市の緑化がまかなえないのか。と言つところには疑問があります。

建物への影響、樹木そのものへの影響。反面高さに対して空気中への蒸散作用を考えると平面の屋根に緑化するより、効率が良いのかも知れません。

ボスコ・ヴェルティカールについては賛否両論があります。が、今後注目していきたい都市緑化の一つではないかと思えます。

透明外壁防水材「スカイコートW」講習会について

透明外壁防水材「スカイコートW」説明会を各地で開催しております！

大日新聞48号にてお伝えした、施工業者様を対象とした「スカイコートW講習会」先駆けて、全国の弊社販売代理店様や、その先の防水工事店様等において先づ「スカイコートW」の商品説明会を開催させて頂き、「スカイコートW」の優れた物性や、作業性について実際に材料を外壁タイルや試験板に塗つてもらつたりして実感して頂いております。

私の客先でも7月・8月とこちらも販売代理店で「スカイコートW」の説明会を開催させて頂きました。7月に開催した説明会では営業担当者以外に「スカイコートW」に興味を持った頂いた施工店の方も数名参加して頂き、プロジェクトでプレゼン資料を見てもうただけではなく、実際に材料を塗つて頂き、材料の特性を実感して頂く事が出来ました。

一度に規定量以上の材料を塗るとどうなるのか？ブライマーがまだ完全に乾燥硬化する前に防水材を塗るとどうなるのか？防水材が未硬化の状態でも雨に打たれるとどうなるのか？等、いろいろと実験をしながら良い点ばかりでなく、マイナスイ点についても知って頂く事で実際の現場で施工してもらおう際に注意するべき点



がわかつて頂けて、より実践的な説明会になったと思えます。

8月に開催した説明会は販売店の営業担当者の方々が対象に開催したので、材料を触つても実際にWを薦めて頂く際に、強くアピールしてもらいたいポイント、逆に注意すべき点等が理解して頂くべき点でなく、画像等を見るだけでは伝わらない材料の作業性や、一切溶剤臭がない点等、他の材料にはない優れた特長を実感してもらえたことが大きいと思えます。

この記事を見て、「ちよつと興味あるなあ。」とか「うちの会社でも説明会して欲しいなあ。」という御要望がございましたら担当営業マンに気軽に相談ください！

DAINICHI CHEMICAL CO., LTD.

- 本社
〒571-0030 大阪府門真市末広町 8-13
TEL : 06-6909-6755(代) / FAX : 06-6909-6702
- 東京支店
〒105-0012 東京都港区芝大門 1-4-14 芝栄太楼ビル 5F
TEL : 03-3436-3801(代) / FAX : 03-3436-3803

大日新聞に関するお問い合わせ・ご意見などはホームページ及び大日化成株式会社06-6909-6755までお願いします。

次号も
お楽しみに

URL : <http://www.dainichikasei.co.jp>

映画で学ぶ 環境問題



コンテイジョン
原題：Contagion

監督：スティーブン・ソダーバーグ
製作：マイケル・シャンバーグ
出演者：マリオン・コティヤール、マット・デイモン、ローレンス・フィッシュバーン

上映：105分
制作国：アメリカ合衆国
配給：ワーナー・ブラザーズ
公開：2011年(米国)

昨年9月、26年ぶりに日本で発生した豚コレラ。農林水産省は、殺処分を進めるとともに、豚肉輸出を停止しましたが、1年を経過したいま、当初、集中的に感染が確認された岐阜以外にも西日本各県に広がりを見せ、先日にはついに埼玉でも感染が確認されました。

人体への影響はないというものの、一頭でも見つかったら、手塩にかけた多くの養豚を殺さざるをえない肥育業者。そして消費者には豚肉への不安や値上がりリスクも出て、何ともやるせない話です。

感染経路は近年増えている外国人観光客と想われ、実際に中国人観光客の持込み食品から別種のアフリカ豚コレラウイルスが検出されました。ただ、ここまで拡大した要因は、まだ不明の状況です。

治療法は無いものの、これ以上の感染を防ぐために、農水省はワクチン接種に踏み切ったのですが、決定まで一年も要したのには「豚コレラ汚染国」の烙印を押されたことに加え、消費者の豚離れなど、デメリットの方が大きいと考えたためです。

しかし、本州の一大産地である関東でも感染が広がった以上、「最終手段」を判断したとのこと。

「え？主演女優がすぐ死亡？」と想つたのも束の間、今度は小さな息子も、あつてなく死亡。残された夫は免疫力があつたものの、致死率は高く周辺住民はもとより世界中で感染が広がり、あらゆる店舗や機関が閉鎖の危機に。食糧も薬品も不足し、人々は生き残るのもやっと。

世界への第一報は彼女ではなく、東京で亡くなった日本人男性だったため、当初は水俣病や細菌テロが疑われます。

ワクチン開発も試みられますが、あまりの強毒性に被験動物が死んでしまつたため手間、医師さえ次々に亡くなりまふ。「タイタニック」でロインを演じたケイト・ウィンスレットも、担当医としてあつてなく死亡します。主演級俳優がこんなに次々

そこで今回は、豚の病原菌ウイルスが突然変異したことによる感染大流行(パンデミック)を主題にしたアメリカ映画「コンテイジョン」を紹介しましょう。ウイルスがどう拡散し、世界各地を、どう直撃するかを淡々と描いていきます。豚コレラをユメタタリ風なうえ、タココレラの発生と報道が身近なこともあり、真に迫る内容となっています。

香港から出張で帰国した女性重役。演じるのは、アカデミー賞女優のグイネス・パルトロー。乗継ぎ空港でせきこんでいる様子が映し出されるも、帰宅後、映画開始から、わずか9分であつてなく死亡します。

亡くなる映画も珍しい！

そんな中、金目当てに二七情報流すプロガーが登場し、ウソの治療薬に多くの人が振り回されます。人口が激減するなか、ワクチン自当てで誘拐をくわだてる外国人が登場するなど、予想外の展開も。

他人の命より私利私欲のプロガーを演じるのは、イギリス出身の名優、ジュード・ロー。誘拐されるのは、アカデミー賞女優のマリオン・コティヤール、当局的医師にはマトリックでも有名なローレンス・フィッシュバーン、女性重役の夫役はマッパ・デイモンなど、とにかく豪華な出演陣。タイトルの「コンテイジョン」とは、つまり「感染」という意味だぞう。

映画の最後に明かされる香港での感染源。それは、冒頭の女性とも密接に関わる驚きの、しかし、日常的にもありえる内容。

日本では今、武蔵村山市の国立研究所でエボラ出血熱などを扱ふ計画が進められていますが、「万が一漏れたらどうする！」と反対運動も起こっているため、この映画の内容も決して絵空事とは思えません。取りあはず「手洗いとウガイは、しっかりと！手洗いとウガイは、しっかりと！」と想わされるややシヨッキンぐな大人向けの作品です。